

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	大阪大学災害ボランティアサークル すずらん
活動テーマ	被災地での地域活性化ツアーおよび民泊の実施



岩手県野田村は東日本大震災で津波により甚大な被害を受けた被災地である。津波の被害により、被災した集落はコミュニティが失われ、震災の影響により少子高齢化に伴う人口減少や後継者不足に拍車がかかっている。さらに、関西にける野田村の知名度の低さ、東日本大震災への関心の低下により、震災の記憶自体が風化しつつある。このような課題解消のため、大阪から野田村へ 5 日間のツアーを開催。また、ツアーをその場限りのものではなく関西でも発信していくため野田村ファンクラブを実施し、ツアーでの活動成果の報告等を行った。ツアーは今回で 14 回目をむかえ、初期のころから、野田村の復興の度合いにより、被災地のニーズを考え、それに合う支援の形を考えながら今に至る。震災により新しくできた集落である新町や南浜での交流会では数年前までは住民同士の会話が少なく、雰囲気も暗いように感じられた。特に南浜での交流会では、学生が話しかけても会話をなかなか続かず、2、3人の知り合い同士でしか会話をしていた。しかし、ここ数年交流会を続けてきたことで、学生とも会話をしてくれるようになり、また学生と話すことで今までは話さなかったような住人とつながりかでき、集落としての一体感が感じられるようになってきた。村全体としても、若者世代と高齢者とで交流がなく両者の間に境界ができているような面もあったが、交流会では学生が両者の橋渡的存在になることによって、若者世代と高齢者の間に交流が生まれていた。このような交流がツアーの期間だけでなく日常から生まれるようにするためにさらに継続的な支援が必要となってくるだろう。

また、ツアーに参加したメンバーは、実際に被災した野田村を訪れることによって東日本大震災を自分事としてとらえることができるようになった。主体的に震災復興へ携わる第一歩となったはずである。